

あらはまぎょこうかいがん
【20】 荒浜漁港海岸

1.概要

荒浜漁港海岸は亶理町荒浜、阿武隈川河口の南側に位置する海岸である。



図 4-20-1 位置図【荒浜漁港海岸】

2.震災後の状況

(1) 被災前後の状況

震災による津波の影響により、防潮堤が被災して大きな被害を受けた。

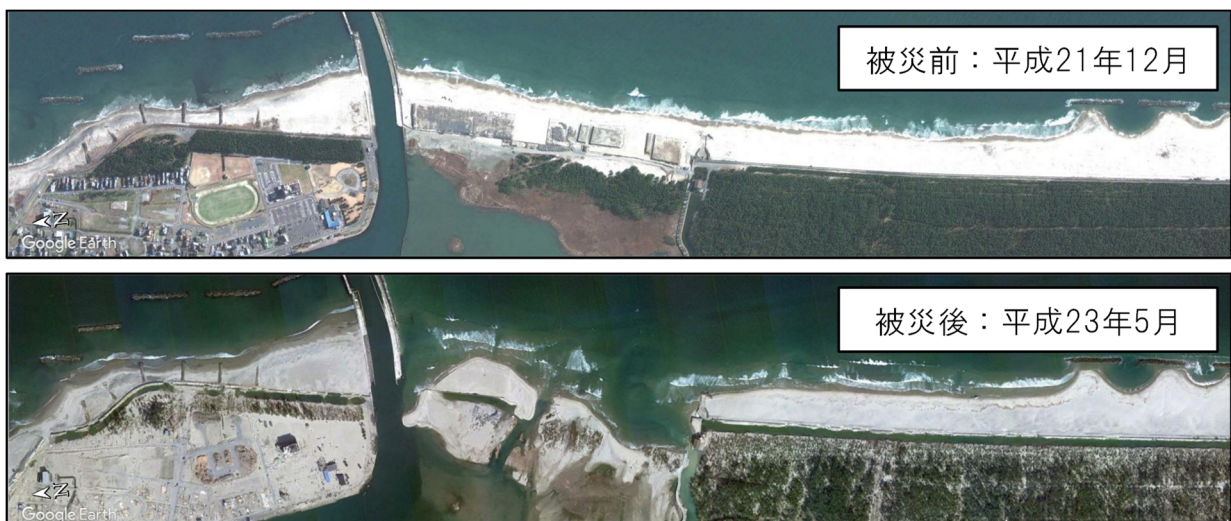


写真 4-20-1 被災状況【荒浜漁港海岸】

4.環境現況調査

荒浜漁港海岸においては継続的なモニタリング調査は実施していないが、工事前の調査により希少昆虫類、ハママツナやハマボウフウなどの海浜環境に生息・生育する重要種が確認されている。

5.工事実施上の課題とアドバイザーからの意見

(1) 想定される事業による影響

- ・ 工事による、動植物の生息・生育環境の悪化・消失
- ・ 濁水発生による底生動物の生息環境の悪化

(2) 環境配慮の実施

1) 昆虫類・植物の生息・生育環境の保全（実施時期：計画段階・工事中）

工事範囲内に希少昆虫類やハママツナやハマボウフウ等の生息・生育が確認されたことから、工事による改変を最小限とし、海浜環境の保全を行った。

【環境アドバイザーからの意見】

意見①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動植物の生息・生育環境（海浜環境）を保全するため、改変範囲は最小限に留めること。 ・ 施工時の工事用道路計画は十分に配慮して決定すること。
意見②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既設の土堤はそのままにして、仮舗装は撤去するとよい。 ・ 工事用仮設道路に海浜植生が広がっているが、工事終了の際にそれらを撤去または埋めてしまうのではなく、現況のまま木を植えて防災林とすればよいのではないか。 ・ 工事用仮設道路の撤去について、海浜植物等を保全するためにも、砂浜は残すべき。工事用道路の前浜側はそのまま残し、陸側の法面のクズ等は駆除していただきたい。また、工事道路の天端はカマボコ型のような自然な形で残していただきたい。
意見③	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事用仮設道路の一部及び海側の重機走路を撤去する際は、一度に全て撤去するのではなく、工事箇所にいる海浜性昆虫類が非工事箇所へ退避できるようにするため、3回位に分けて行うことが望ましい。

【実施方法及び留意点】

- ・ 防潮堤建設地以外の箇所については、計画段階においてブロック作成ヤード及び残土置き場等の仮設ヤードの配置を検討することで、改変範囲の最小化を図った。（意見①への対応）
- ・ 工事用仮設道路の撤去については、海浜植生や希少昆虫類を保全するため、天端盛土・大型土のう（上部1段）は撤去し、砂が堆積し動植物の生息・生育域となっている海側の範囲をそのまま残して陸側の盛り土のみを撤去した。（意見②への対応）
- ・ 工事用仮設道路の一部及び海側の重機走路を撤去する際は、希少昆虫類への影響を低減するため、複数回に分けて実施した。（意見③への対応）

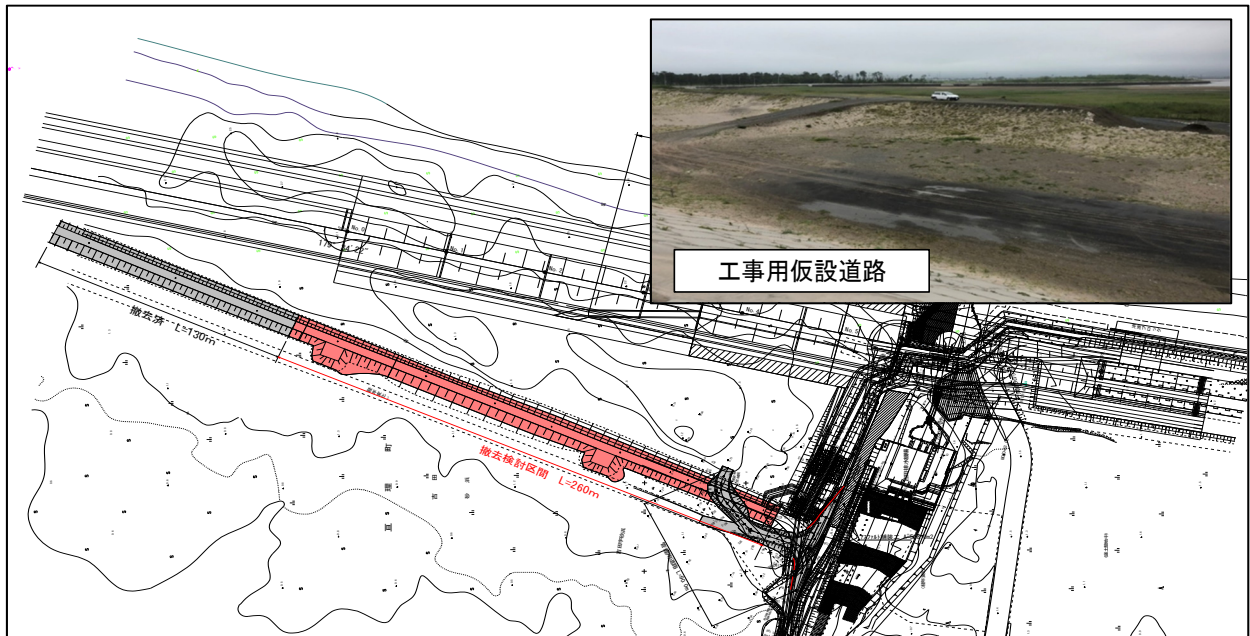


図 4-20-4 工所用仮設道路位置（着色部分が対象範囲）【荒浜漁港海岸】

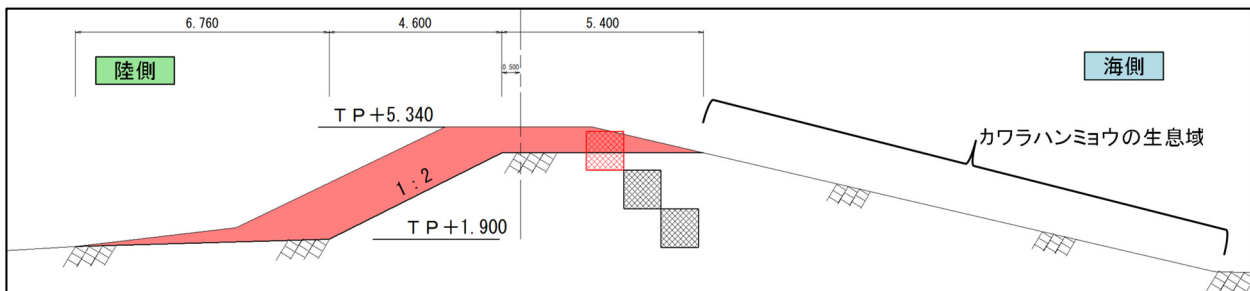


図 4-20-5 工所用仮設道路撤去範囲(着色部分) 【荒浜漁港海岸】



工所用道路撤去前状況



工所用道路撤去後状況

写真 4-20-2 工所用道路撤去前後の状況【荒浜漁港海岸】

2) 希少昆虫類の保全（実施時期：工事中）

防潮堤建設範囲内で確認された希少昆虫類の幼虫の保全を行うため、工事前に巣穴周辺をバックホウにより掘り取りを行い、非改変範囲へ移植を行った。

6.保全対策後のモニタリング結果

(1) 昆虫類・植生の生息・生育環境の保全

工事後のモニタリング調査で、希少昆虫類の生息や海浜植生の生育が確認されている。

7.まとめ

(1) 保全対策の要約

【動植物の生息・生育環境の保全】

工事範囲内に希少昆虫類、ハマツナやハマボウフウ等の生息・生育が確認されたことから、工事による改変を最小限とし、海浜環境の保全を行った。

【希少昆虫類の保全】

防潮堤建設範囲内で確認された希少昆虫類の幼虫の保全を行うため、工事前に巣穴周辺をバックホウにより掘り取りを行い、非改変範囲へ移植を行った。

(2) 今後の課題

防潮堤と残置した工事用仮設道路の間の区間については、植生の回復状況や希少昆虫類の生息状況について留意する必要がある。また、残置した工事用仮設道路の陸側法面より、クズ等の植物の海側への侵入・繁茂にも留意し、必要に応じて環境アドバイザー等の助言を受けながら順応的な対策を講じていくことが必要となる。